

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370102115		
法人名	医療法人祐基会		
事業所名	グループホームおびやま 「六花苑」		
所在地	熊本県熊本市帯山4丁目6-31		
自己評価作成日	平成21年8月26日	評価結果市町村受理日	平成21年11月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4370102115&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市水前寺6丁目41-5		
訪問調査日	平成21年10月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームおびやまは民家を改造して作られた施設で屋内の床は木目張り落ち着いた雰囲気である。
6名の入所であり自由で和やかに、ゆったりとした生活をおくられている。
庭の周囲にはいろんな種類の庭木があり季節の花をたのしめます。
医療法人である病院がすぐ隣にあり病状悪化の場合はDrの診察がいつでも受けられる環境にあります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体病院や併設のデイケア、訪問介護事業所と隣接しており、相互の協力体制が整備されている。日々の健康管理から緊急時の対応に至るまで密な連携が図られ、医療依存度の高い入居者にも適切な支援が得られている。災害訓練や行事等には法人全体から人的・物的支援があり、熱心な取り組みが見られた。一人ひとりへの声かけや配慮が多々見られ、6名の入居定数で職員数も限られてはいるが、返って家族のような親密な関係が深まっているように感じられた。また、民家改造の家屋や、一般家庭そのものの家具の配置が、家庭的な雰囲気をより一層漂わせており、入居者は我が家に居るように安心した表情で過ごされていた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	業務に入るまえに理念を意識し業務に入るようにしている。	尊厳ある安心な暮らしや、持てる能力を活用したその人らしい生活の実現に向け、支援することを理念に掲げている。倫理規定に地域密着型サービスとしての役割を載せ、共に玄関に掲示し、日々意識付けが行われている。家庭的な雰囲気や入居者の笑顔、地域交流の様子から、理念の実践に努力されていることが伺える。	理念は開設当初に作られたものであるが、現在の地域の状況やニーズに即した内容であるかなど、職員全員で見直す機会を持つことが望まれる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内行事に参加、どんどや、運動会見学、夏まつり、地蔵まつりなど地域の人達と交流を図っている。	開設から9年を経過し、地域に溶け込んだ存在となっている。町内の清掃活動や行事に入居者と共に参加し、ホームの行事には地域住民に参加を呼びかけている。買い物は近くの商店に出かけ、顔馴染みとなるなど、熱心な働きかけが見られた。庭の畑作りに隣人のボランティア参加もあり、地域との交流が図られていることが感じ取れた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議での話しの中に認知症に関する話を盛りこんだりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	生活の変化や体調、行事での出来事など報告しているその中で意見交換し次の行事や地域との交流が出来るようにしている。	定期的に会議が開催され、自治会、老人会、民生委員、地域包括支援センター、家族等の参加を得ている。会議では、ホームの現状や行事予定等報告し、地域包括支援センターからは介護情報の紹介があり、参加者の理解と協力を得る機会となっている。地域のニーズ、地域行事の情報、ボランティア情報など活発な意見交換も行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護を受けておられる方で入所の問い合わせあり保護課に相談する。	毎月のグループホーム連絡協議会や、地域包括支援センターから制度等の情報伝達が有り、直接市担当者と連絡を取り合う機会は極めて少ない状況にある。地域包括支援センター職員とは運営推進会議への参加もあり、相談できる関係が築かれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は夜間以外は鍵を掛けないようにしている。言葉のロックも掛けないような場面作りをするようにしている。	拘束をしないケアに取り組んでおり、入居者は自由に過ごされている。キッチンからは玄関先や門扉が見渡せ、外に出ようとする人には声をかけたり、一緒について行くことで事故防止に努めている。地域住民とは、入居者の姿を見かけたら連絡してもらえ関係が築かれており、法人全体の応援体制も整っている。	万が一に備えて、交番への協力依頼を行う予定があり、一層の安全確保が期待される。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待に結びつくような行為を発見すれば話し合いをし速やかに対応する。利用者の職員に対する反応などにも注意する。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対応が必要なときは随時説明を受ける。対象者がいれば専門家に相談する。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の説明と同意を得ている。又改定の場合は随時説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を玄関に設置している。	年に2回の家族会では、食事をしながら交流を図る工夫があり、家族参加を勧め、要望を言い出しやすい雰囲気作りが行われている。家族の訪問時には、気軽に声を掛け合う様子が見られ、コミュニケーションが円滑に図られていることが伺えた。入浴時間など、要望には柔軟に対応する努力が確認できた。	家族会では、家族だけの意見交換の時間を設けるなど工夫され、言い出しにくい意見・要望も引き出す努力を、継続して行われることを期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	訪問された時に話しを聞くようにしている。家族会の時に意見要望を聞く。	毎月のミーティングには法人本部からの参加があり、職員からの意見・提案は法人全体でバックアップする体制が整っている。限られた職員数の中、人員配置に工夫され、勤務希望に沿う努力が続けられており、増員対策も進行中である。	サービスの質の向上の為には、ゆとりある業務体制が不可欠と考える。増員だけでなく、職員のストレス解消方法や業務の見直しなどの検討も望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与のUPあり。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修は受けれるが法人外での研修は少ない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会にて情報交換を行っている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望に答えられる事とそれを理解し心から安心されるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安に思っておられる事じっくりと聞くようにしアドバイス出来るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービス利用は医療でのリハビリを受けられている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者に関きながら行事など相談して計画にとりいれている。いっしょの目線で生活をするように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	どんな様子で過ごされているか伝え家族の思いに耳を傾け話を聞くようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	兄弟の訪問が良い影響を与えているので継続するようお願いをしている。近所のお茶屋に行ってお話を楽しんだり、理容室を定期的に利用するなどしている。	家族の訪問が困難な人には、親族の訪問を呼びかけたり、季節毎に衣類の交換をお願いするなど、訪問の機会作りが行われている。併設のデイケアを利用していた頃の利用者仲間の訪問もある。暑中見舞いやホームからのお便りには、入居者直筆のコメントを添え、時には入院した知人のお見舞いに付きそうなど、馴染みの人との関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒にゲームをしたりお茶を飲みながら昔話をして会話を多く持つようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特老に入所された家族とお会いし状況を聞いたり不安な事に対しお話をしたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	行動や表情、家族からの情報などで把握している	職員・利用者間の信頼関係が築かれており、入居者が気軽に要望を伝える様子が見られた。言葉で伝えることが出来ない人には、表情、動作から思いを察知するよう努めている。その日その時の思いに沿った支援で、心の安定が図られている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の方が来られた時、本人の若い時や以前の暮らしなどの情報を聞かせてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	気持ちの表現の仕方や行動に目をむけるようにしている。ADLの把握や生活力を見るようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	高齢で平均年齢90歳であり身体能力の低下はあるが興味ある事や快適に生活できるような計画を作成している。	入居時に、センター方式のアセスメントツールで詳細な情報収集を行い、介護計画を作成。モニタリングでは、日々のケース記録や職員の意見を基に課題を見出している。計画立案に際しては、本人・家族の意向を確認、ミーティングでも検討しており、本人や家族、職員の意見を反映した計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	問題発生時にスタッフと話し合い計画の見直しと実践を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	膀胱ろうによりバルーンカテーテルの留置が必要な利用者さんに入所の継続を家族が希望され検討を行い現在継続入所されている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の行事に参加したり法人で行う行事やデイケアで行う行事に参加したりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同法人の病院から2回/週Drの往診あり。それ以外の病状の変化あれば随時診察を受けている。	かかりつけ医は希望に沿っているが、現在は全員が母体病院利用となっている。定期の受診は医師がホームを訪れており、随時の受診は外来看護師との連携で待ち時間も無く、入居者の負担が軽減されている。受診時は必要に応じて家族の同伴を求め、職員は必ず付き添い、状態を伝えて後の対応に活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間連絡体制にて異常時の連絡相談を行っている。必要な時に受診が行えるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供、入院中の経過観察などを行い病院スタッフとのコミュニケーションを図っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	見取りのケア体制をとっており入所者の希望時に家族と話し合いながら適切なケアが行えるよう個々のケア、観察、判断力を高めるように努めている。	重度化や終末期のあり方について、早い時期から家族、かかりつけ医と話し合い、家族の意志確認が行われている。今後も病状の進行状態によって、随時話し合いを重ねていく方針。母体病院の協力が得られやすい環境にあり、ホームの看護師は24時間の連絡体制を取るなど、看取りケアにも対応できるように、着々と準備が進められている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AED使用の訓練、救急処置の勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人からの協力体制や近隣の方の協力で防災訓練を行っている。	昼、夜を想定し、それぞれの避難訓練を実施。法人からの応援体制が組まれており、訓練時は近隣に協力依頼のチラシを配布して、自治会や婦人会等からの参加を得ている。外部からの応援者のために、玄関前に間取り図を掲示。法人全体の訓練にも参加し、普段から消火器の設置場所を意識するなど、災害対策への意識の高さが確認できた。	地震対策を考慮中であり、入居者の安全確保に向け、熱心な取り組みが期待される。災害時の地域への貢献についても、法人全体で検討されると更に良いと考える。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉掛けには注意し気持ちを気遣い、傷つけないようにしている。	職員と入居者のやりとりには家族的な雰囲気があり、親密な関係が築かれていることが感じられた。明るく元気な対応が行われていたが、トイレや入浴の誘導では周囲に配慮し、トーンを抑えた声かけが必要と思われる。	親密が故に、うっかり馴れ合い的な言葉が発せられることも見受けられた。今後の課題として、改善に取り組まれるよう期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話しやすい雰囲気作りと要望された事は出来る限り叶うように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出きるだけ本人と話し希望にそようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔な衣類を着用、一緒に服選びをしたり、希望で髪をカットしたり支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	時々一緒にメニューを考えた、希望の献立にしたりしている。材料の刻みや後片付けを一緒にしている。	献立は入居者の好みを反映、好評な料理はしばしば献立に組み入れるようにしている。入居者と一緒に買い物に出かけたり、調理は個々の力に応じた役割を依頼し、活躍の場を作っている。時には、外食や手作り弁当持参で花見に出かけるなど、食事を楽しむ工夫が行われている。	職員はキッチンで見守りながら食事を摂っているが、ワゴンテーブル等工夫し、一緒に食事が出来ると、更に楽しい食事になると考える。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要な方には、水分量の表を作成しチェックしている。個々に合わせた大きさ、量を考慮している。栄養低下がある方にはDr指示により補助食品の使用を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨き、口すすぎなど声掛け、見守り、一部介助の支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	紙パンツを昼間布パンツに交換し排尿誘導を行っている。夜間ポータブルトイレ昼間はトイレ使用を行っている。	夜間はパンツタイプの紙おむつを使用し、睡眠を妨げないようトイレ誘導は行っていないが、日中は普通のパンツにはき替え、一人ひとりの排尿パターンに沿った声かけで、失禁を防いでいる。日によってパターンが乱れる人には、表情やしぐさで察知するなど、熱心な自立支援が行われ、常時おむつ使用していた人も、日中はトイレでの排泄が可能になっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給、食事の献立の工夫、ヨーグルトの摂取や体を動かすよう促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の好きな時間に入浴できるように支援している。入浴を拒否される利用者には清拭、部分浴を行っている。	一般家庭と同じ作りの浴室で、一人ゆっくりと入浴を楽しんでもらうよう支援している。入浴中は見守りを基本に、安全の確認と出来ない部分を介助している。入浴拒否の人には無理強いせず、体調や表情、行動からタイミングを見計らって声かけしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リラックス出来るように気持ちを安定させ不穏状態にさせない。ベッドがいやな利用者には布団でやすめるように支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の説明書を確認し個々の用法に従って内服支援を行っている。副作用の症状あれば看護師からDrに報告を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1年を通して季節に合わせた行事を行っている。梅干作り、白菜漬けを一緒に行い、七夕、クリスマスの飾り付けを一緒に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くに散歩したり、買い物に同行したりしている。ドライブや買い物、お花見の時は弁当を持って出掛けたりしている。	散歩や買い物、地藏さん参りなど、毎日のように外出の機会が作られている。体力的に外出が困難な人や、うつ傾向で閉じこもりがちの人には、縁側での日光浴で、庭や路地の風景を楽しんでもらうよう配慮されている。月に1回は全員で、花見や動植物園等に出かけるようにしており、入居者の楽しみになっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いはグループホームで管理しているが、買い物の時支払いを本人にしてもらったり、初詣のさい銭など自分で持ったりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話できるよう公衆電話が置いてあり希望される方には電話の支援をしている。グループホームのお便りやはがきに一言コメントを書いてもらっています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	縁側にソファをおき庭をながめ季節感を味わう。花に水やりを楽しまれたり落ち葉を自らホウキではかれたり生き生きと生活されている。	民家の趣を残した改修で、見守りが行き渡るよう間取りが工夫されている。必要な所には手すりを設置、段差もあるが声かけで事故防止に努めている。リビングには和卓スペースがあり、家庭的な家具の配置で、くつろいだ温かみのある空間が作られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂のテーブルに集まって会話を楽しんだり、折り紙やゲームして過ごしている。玄関横のソファに座って、外を眺める時もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を用意し、仏壇に朝からお茶を上げられたり、家族の写真、タンスなど持参されている。	ベッドとタンスはホームで備えているが、馴染みの鏡台やタンス、小物等が持ち込まれ、それぞれに個性ある居室作りが行われている。伴侶の遺影・位牌を祀った部屋も見られ、壁には職員手作りの誕生日を祝う色紙が飾られていた。また、居室にお茶を常備し、自室で自由にくつろげるような配慮もみられた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した排泄ができるように移動時の安全を考慮して手すりを取り付けている。トイレの暗さをカバーする為日中も電気を付けている。		